



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」
 ☎ 190-0154
 あきる野市高尾 182-1 佐橋方
 電話 & FAX : 042-596-4569
 e-mail : kusasigi@nifty.com
 共同代表 : 柏倉倫子・岩田純子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず、コツコツと手作りの政治を！



届かなかった小さな声

～議会への陳情をめくって～



3月議会に「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」で、2つの陳情を出しました。いずれも国に対してあきる野市議会から意見書を出すように求めた陳情です。

一つは、「原発事故で被災した子どもたちの健康を守るための陳情」、もう一つは「ヘイトスピーチ対策のための法整備を国が行うことを求める陳情」、です。



「原発事故で被災した子どもたちの健康を守るための陳情」

については、「趣旨採択」になりました。「採択」という言葉が付いているので肯定的な感じがしますが、実質的には「不採択」と同じです。

原発事故後、福島県でおこなわれている検査で、甲状腺ガンの子どものがすでに118人（疑いを含む）も見つかっています。

ます。放射能に汚染された地域は福島県だけに留まらず、当然、県外の子どものたちに対しても検査が必要です。ところが、日本政府は福島県だけでしか検査をおこなっていません。また、放射線の影響は甲状腺ガンだけではなく、様々な病気につながることは、チェルノブイリ原発事故を見れば明らかです。しかし、現在おこなわれている主な検査は甲状腺検査だけで、血液検査も尿検査もおこなわれていません。私たちの陳情では、この2点を問題にし「県外を含む検査」と「より詳細な検査」を求める陳情を出しました。今の日本政府の姿勢を許しては、子どもたちの未来を守ることはできないと考えたからです。

しかし、議会の審議を傍聴して唖然……。がっかりさせられました。複数の議員がまず気にした点は、私たちの会が他の市議会に同じ陳情を出していないかということ。よく言われる横並びの体質を見るような気がしました。

そして、「あきる野市の子どものたち全員に甲状腺検査をしたら大へんなことになるのではないかなどと、陳情内容を取り違えたおかしな発言も飛び出しました。

また、「政府もそれなりにやっているようだから、もう少し様子を見てもいいのではないかな」という甘い認識の発言もありました。現在、政府内には甲状腺検査を縮小しようとする動きもあり、事故から4年経った今、むしろ状況は悪くなっているのです。

さらに驚いたことに、議員の中には、福島で問題になっているのが甲状腺のガンであることすら知らない議員もいました。

こうして出された結論が「趣旨採択」でした。

陳情は、市議会に「ぜひこの問題について話し合ってください！」とお願いする大切なメッセージ。もっと、真剣に話し合ってください……



3月議会の議案から抜粋 (○は賛成、×は反対 △継続 ▲趣旨採択 (継続審議、趣旨採択は、全員一致が条件)	自 民 党 志 清 会	市 議 会 自 民 党	公 明 党	共 産 党	政 和 会	民 主 党
陳情：ヘイトスピーチ対策のための法整備を国が行うことを求める陳情	△	△	△	△	△	△
陳情：原発事故で被災した子どもたちの健康を守るための陳情	▲	▲	▲	▲	▲	▲
議員提案：「核兵器のない世界に向けた法的枠組み」構築への取り組みを求める意見書	○	○	○	○	○	○
議案：あきる野土地開発公社の解散について	○	○	○	×	○	○
議案：あきる野市子どものための教育・保育給付に係る利用者負担額に関する条例	○	○	○	×	○	○
議案：あきる野市介護保険条例の一部を改正する条例	○	○	○	×	○	○
議案：平成27年度あきる野市一般会計予算	○	○	○	×	○	○

志清会=天野正昭・市倉理男・子籠敏人・澤井敏和・中嶋博幸・細谷功・堀江武史・町田匡志・村野栄一/あきる野市議会自民党=奥秋利郎・村木英幸/公明党=田中千代子・増崎俊宏・松原敏雄/共産党=たばたあずみ・戸沢弘征・山根トミ江/政和会=合川哲夫・野村正夫/民主党=清水晃・中村のりひと

差別のない社会をつくるために

渋谷区では同性のカップルを「結婚に相当する関係」と認める条例が成立し、大きな話題となりました。世田谷区でも同じような検討を進めていることが明らかにされています。

あきる野市では、「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」が教育委員会に要望し、学校現場で「性同一性障害」への理解を深める動きが始まりました。市内に住む性同一性障害のIさんが学校を訪ね、自分の体験談を直接、教師に語りかけるといった試みです。

性的少数者（性のあり方が一般の人とは違う人）は、20人に1人の割合でいると言われます。学校のクラスで1人が2人はいることとなります。そうした子どもたちが、その子らしくのびのびと生きていけるためには、まずは先生方の理解が不可欠です。

Iさんのお話を聞いた先生は、「性同一性障害のことは知ってはいましたが、直接、当事者の方からお話を聴くことで初めて分かることがたくさんあり、貴重な機会になりました」と語られました。

今年度も市内の学校でIさんのお話を聴く場を広げていきたいと思います。



そもそも政府に意見書を出して欲しいという陳情に対して、「趣旨採択」が成り立つのか疑問です。たとえば「新しい図書館を作って欲しい」という陳情であれば、「趣旨は分かるけれども予算的に実現できる確信がないので『趣旨採択』という選択もあるでしょう。しかし、意見書を出すのには、予算を取る必要も行政組織を動かす必要もありません。「陳情の趣旨は分かる」と言いながら、意見書を出さない理由がどこにあるのか、どの議員からも納得のいく説明はありませんでした。

陳情に真摯に向き合うのであれば、出来る限り「趣旨採択」にならないように努力するのが、議会の責任ではないでしょうか。



一方、**ヘイトスピーチ**についての陳情は、「勉強不足で結論が出せない」という理由で「**継続審議**」になりました。ヘイトスピーチは、ネット上や街頭で特定の民族や集団を差別し口汚くののしる行為で、すでに社会的に大きな問題になっています。ヘイトスピーチを野放しにしている日本政府に対し、国連からは勧告も出されています。

ヘイトスピーチという言葉の暴力によって社会的に弱い立場の人々がどれだけ深く傷付いているか、事態の深刻さに目を向け、次回の6月議会ではぜひ意見書の提出を採択してほしいと思います。

早期の「るのバス」の増車、増便、増コースを切に望みます

市民の つぶやき (その4)

あきる野市に転居して早6年、一番ビックリしたのが交通の便がとても悪いこと。「るのバス」は最寄のバス停で一日6本程度。「るのバス」導入から10年以上たちますが、未だに一台のバスで全市を網羅しています。高齢化がますます進み、「るのバス」は必要不可欠のものとなることが予測されます。誰でも年をとります、友人との交流をするために、また生活用品の購入へと公共交通機関は大切な足です。高齢者だけではなく体の不自由な人、公共交通しか移動手段がない人にとっても必要なものです。又、公共交通機関の充実と市の活性化は密接な関係があります。今まで20数市のコミュニティーバスに試乗し自分自身で電話によるインタビューなどを実施しましたが、どこの自治体でも異口同音に導入のきっかけは市民の足の確保と市の活性化が目的だったと言っています。誰もが安心して外出できる態勢が整うといいな、と感じます。また、市民の足の確保は自治体の責務だと感じています。(I)

♥「辻よし子と歩む会」は、2011年3月11日に起きた東

日本大震災と福島原発事故をきっかけに、政治を一般市民の手元に引き寄せたいと思った無党派のあきる野市民が集まってできました。

「政治って、むずかしそう……」「どうやって政治参加すればいいのか分からない……」と思っている方、まずは一緒に学ぶことから始めませんか。私たちの会では、市政に関する学習会などをおこなっています。ぜひ、お気軽にご連絡ください。



辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2013年、市議選に立候補、惜しくも次点。現在、夫、高3・中2の息子、インコ、猫と草花に暮らす。